

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 長浜市立西中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒526-0037

滋賀県長浜市高田町 10-10

E-mail nishi-chu-k@city.nagahama.lg.jp

Website <http://www.nishi-ms.nagahama.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 246 名 女子 275 名 合計 521 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は学校教育目標「人格を高め、社会に貢献できる生徒の育成」
～気品があり、「いい声」「いい汗」「しなやかな心」～ と設定し、
その実現のために特色ある学校経営の柱として、
○日々の授業を大切にし、確かな学力と生きる力を育てる学校
・特別教育支援教育に視点を置いた授業実践と個に応じた指導を推進する。
○人格を高め、道徳的実践力を育む学校
・善行を表彰し、ボランティアスピリットや道徳的実践力を育む。
○地域や日本の伝統文化を学ぶ、文化の香り高い学校
・長浜曳山祭など、地域の伝統芸能、文化、茶道や和楽器などの日本の伝統文化に親しみ、品位を高め、郷土に誇りを持ち、国際社会に貢献できる生徒を育成する。
の 3 つを掲げて日々教育活動を行っている。
ESD に関わる活動として、上記のボランティアスピリットや道徳的実践力の育成として、①地域とつながる環境ボランティア活動、地域や日本の伝統文化に学び、郷土に誇りを持ち、国際社会に貢献できる生徒の育成として、②伝統文化学習活動を行っている。

① 地域とつながる環境ボランティア活動

・花火大会清掃 平成 29 年 8 月 5 日(土) 7 : 00 ~

市内各種団体(自治会、女性会、商工会、民生児童委員協議会、市役所職員など)ボランティアとともに、前日の花火大会明けの会場(長浜港)のゴミ拾いなどに 400 名以上の生徒が参加し、地域の方とともに環境整備を行った。



開始式生徒会環境委員長あいさつ



市役所スタッフ



開始式集合の様子

・トイレ掃除に学ぶ会

8 月に全校からボランティアを募り、夏季休業中に行った。次に 3 月の卒業前に 3 年生生徒が学校への感謝を表す行事として実施した。滋賀トイレ掃除に学ぶ会より指導にいていただき、手袋をつけて素手で便器を磨く作業に参加した生徒は気持ちを込めて作業を行うことができた。



トイレ掃除に学ぶ会のお話を聞いたのち、真剣に作業に取り組む生徒たち

② 伝統文化学習活動

・1 年曳山文化教室(年間 20 時間)

世界無形文化遺産に指定された曳山祭について、曳山継承委員会の方々を講師として学習をした。祭の山車見学に始まり、祭で行われるいくつかの儀式の体験をし、曳山関連の伝承委員によるワークショップを行うことができた。

・2, 3 年伝統文化学習(2 年 15 時間、3 年 15 時間)

今年度で 11 年目となる伝統文化学習講座は、箏(そう)、尺八、茶道、書道、花道、剣舞歌謡舞、日本歌謡、語り部、囃子(しゃぎり)の 9 講座を開設し、2 年生が 10 月より学習を開始した。3 年については前年度後期よりの学習を継続して行い、6 月 10 日(土)には、長浜市文化芸術会館で 1 年間の学習の成果を地域の方々に向けて発表することができた。



曳山文化教室蒔絵体験作品



伝統文化学習発表会



曳山文化教室くじ取り式体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(休業日、放課後)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

滋賀トイレ掃除に学ぶ会資料 長浜市曳山歴史博物館資料 遠州流茶道紹介パンフレット
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

3年間の継続した活動を考え、総合的な学習の時間を各学年で年間を通じて取り組めるよう計画している。1年生では「曳山文化教室」として20時間、2年後期15時間、3年生前期15時間の2学年にわたり、伝統文化学習を定期的に行い、講座修了時に発表会を行って、生徒個々の成果を発表する機会を設けている。

ボランティア活動については、長期休業時に日程を組み、生徒の自発的な活動として取り組ませている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

カリキュラム作成において、教員と地域ボランティア講師が共同で行い、組織的に活動できる体制が整っている。また、地域の講師陣を整えるための実務を教員だけで行うのではなく、学校運営協議会による地域ネットワーク部会を中心に支援していただいているなど、持続可能な仕組みを作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

29年度の学校評価では、伝統文化関連の学習に意欲を持って取り組んでいるかとの問いに生徒の90%以上が肯定的回答をしている。教員についても同じく高い割合で意欲的に取り組んでいることから、学校全体がユネスコスクールとしての活動に誇りを持って活動できていると思われる。今後は地域の関係機関とより良好な関係を築いて活動の活動の場を広げていくことが課題となっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール登録にともない、Web や広報等で発信したことから学校の支援団体である、地域自治会で構成される学校後援会などへ学校の活動を理解してもらいやすくなった。また、情報誌の取材や他の学校からの問合せがあり、生徒の学習活動を知ってもらう機会に恵まれた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校運営協議会の地域ネットワーク部会を仲立ちとして、地域の曳山歴史博物館、曳山伝承委員会や伝統文化を継承する講師の方々をつなぎ、本校の教育課程を支えていただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

Web での一方向的な発信しかできておらず、他校との双方向の交流は成立していない。同じ市内中学校で先にユネスコスクール認証をされたので、認証伝達について生徒や地域にどのように行っていくかを意見交換することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

まずは生徒にとって、伝統文化学習やボランティア活動など地域の中で取り組んできたことが認められたことは、誇らしいと感じている。地域の学校に関わる方々も日常的に来校されることで地域に開かれた学校となっていると思われる。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の学校評価検討委員会で、総合的な学習の時間を中心に現在行っているボランティア活動・伝統文化に関わる学習を継続・発展させていくことが基本方針として決定している。

①伝統文化に関わる学習

- ・ 1 年 曳山文化教室 2, 3 年 伝統文化学習

来年度も、学校運営協議会の支援により地域の関係団体と連携を密にし、本事業を継続・発展させていく。

②社会貢献に関わる学習

- ・ 来年度は生徒会活動を中心として、生徒主導によるボランティア活動の展開を行いたい。

③異文化理解学習

- ・ 今年度も 12 月の人権週間に行っている様々な人権に関わる学習を年間 2 回に増やし、国際理解教育を深めていきたい。